

レジメ「私たちのからだは誰のもの？」I コリント 6:12-20

2025年8月24日 礼拝

序論)心とからだの両方の大切さ

- 人は「心が大切」とよく言う(賛美・献金・証し・伝道など)
- 聖書も心の大切さを強調(Iサム 16:7、やもめの献金、イエスの教え)
- しかし「心が大切だから、からだはどうしてもよい」わけではない
- 今日のテーマ:私たちのからだを神様の前でどう用いるのか

前提)コリント教会の状況

- 教会の4つ目の問題:性的罪
- 背景:コリントの町は偶像礼拝と性的乱れの町であり、神殿娼婦が存在していた
- 信者の中にも性的罪に陥る者がいた

1)私たちのからだは主(神様)のもの(6:12-14)

- 誤解:「救われたから何をしても許される」
- 真理:赦しは欲望のままに生きる自由ではなく、欲望から解放され主に仕える自由
- 「すべてが許されている」=すべてが益になるわけではない
 - 「益」=共に生み出す益(ギリシャ語:シュンフェレイ)
- からだは欲を満たすためではなく、主のためにある
- 復活の御業によって、新しい存在として主のために生きる

2)私たちのからだはキリストのからだの一部(6:15-18)

- 教会全体はキリストのからだ。その一部である私たち
- 性的行為は「一つになる」行為 → 相手と完全に結びつく行為
- 遊女と交わることはキリストのからだを汚す罪
- 主との交わり=主と一つの霊になること
 - 単なる祈りやみことばを読むのではなく、主の御心の実現のためにからだを用いること
- だから「淫らな行いを避けなさい」(6:18)

3) 私たちのからだは聖霊の宮(6:19-20)

- 「宮」=ナオス=至聖所(もっとも聖なる所)
- 聖霊が住む場所=私たちのからだ
- もはや自分自身のものではなく、聖霊の所有
- キリストのいのちという代価で買い取られた主の所有物
- だから、からだをもって神様の栄光を現すことが使命

結論)私たちのからだは誰のものか？

1. 主のもの — 欲望ではなく神様のために用いる
2. キリストのからだの一部 — 遊女でなく主と一つになるために用いる
3. 聖霊の宮 — 代価を払って買い取られたからだを神様の栄光のために用いる

応答のとき

自分のからだの用い方を振り返り、悔い改めることがあれば悔い改めましょう
今週、このからだをどのように用いるか、聖霊の導きを祈り求め、具体的に書き出してみましょう